

健康登山30:自然歩道15 (天理駅～石上神宮～大神神社～桜井駅)

コース	天理駅 2.7km/43 1.4km/22 1.3km/22	石上神宮 1.2km/22 長岳寺TC 3.3km/55 大神神社 2.0km/31	峠の茶屋 3.1km/48 相撲(兵主)神社 1.9km/30 仏教伝来の地碑 2.1km/29	衾田稜 桧原神社 桜井駅
水平距離	19.1km		断面図 縦軸: 高度m 横軸: 距離km	
水平換算距離	15.1km			
累計高低差	登り410m、下り395m			
標準歩行時間	5:02			
実績歩行時間	5:27			



山行報告

山行日	2007・11・01(木)	天候	雨のち曇り	参加者	8名
行動	天理駅9:45 石上神宮10:20 峠の茶屋11:01 夜都伎神社11:16 衾田稜11:58 長岳寺トレイルセンター12:19~12:55 相撲(兵主)神社13:43 桧原神社14:23~14:37 大神神社15:12 金屋の石仏15:24 仏教伝来の地碑15:44 桜井駅16:12				

記録

天理駅から天理教本部を通り抜け、布留大橋を渡ると古代ヘタイムスリップしたように雰囲気が一変する。石上神宮の鳥居をくぐると放し飼いの鶏が出迎えてくれた。本殿に参拝後東屋で小休止、ここは奈良から来る東海自然歩道との合流点で私たちは桜井へ向かって南下した。内山永久寺跡を過ぎ、ゆるやかな坂道を50mほど登ると峠の茶屋に着いた。無人販売の柿を買い求めたりしながら雨を避けて小休止。15分ほど歩くと古い檜皮葺の夜都伎神社に着いた。ここから環濠集落を通り萱生町では自然歩道からは少し離れた衾田稜へ立ち寄った。農道を通って自然歩道に戻り、20分ほど歩いて長岳寺の山門前にあるトレイルセンターに着いた。トレイルセンターは清潔で美しく、係りの方の対応も親切で気持ちよく昼食をさせてもらった。天理市では『あるく絵本』を発行されていて山の辺の道をはじめ大国見山コースや竜王山コースなど8コースを紹介されており、PRに注力されている。

昼食後、崇神天皇陵や景行天皇陵の傍をとおり桧原神社へ向かったが、途中で一時的に雨が止み前方に三輪山を見ることができた。また霞んでいたが葛城山から金剛山の山並みも見られた。途中、相撲神社と兵主神社にも立ち寄った。桧原神社には珍しい三つ鳥居があり、また鳥居越しに見る二上山の夕景がすばらしいという話だが何も見えなかった。桧原神社前の茶店で一休みさせてもらった。

すぐ近くにある狭井神社と大神神社にお参りしたが、今日は大神神社の大祭だったので参拝者で賑わっていた。そこから平等寺と金屋の石仏をとおり、海柘榴市観音に立ち寄り、大和川河畔にある仏教伝来の地碑を見た。大和川を渡った左岸には小野妹子が隋から帰国した時の様子を描いたタイル壁画がある。

山の辺の道は古代のロマンがいっぱい詰まった道である。

自然歩道 (天理駅~石上神宮~大神神社~桜井駅)



石上神宮  
10:20



夜都伎神社  
11:16



野道を歩く  
11:28



長岳寺山門  
12:18



三輪山へ向う  
13:25



兵主神社  
13:47



桧原神社  
14:25



大神神社  
15:12



金屋の石仏  
15:27



仏教伝来の地碑  
15:44



名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：山の辺の道 天理駅～桜井駅）

参考資料、聖徳太子と斑鳩、古代天皇の都／HP、その他

- ◎ <sup>いそのかみ</sup>石上神社：鏡池に棲む馬魚(ワタカ)は天然記念物です。  
また鏡池前にある鶏舎の東天紅も天然記念物です。  
楼門前石段右側の**摂社出雲建雄神社割拝殿(国宝)**は鎌倉初期保延3年(1137)のもので次に紹介する**内山永久寺鎮守「住吉社」の拝殿を移築**(大正3年)したものです。
  
- ◎ 内山永久寺跡：平安時代1115年頃(永久年間)74代鳥羽天皇の勅願で創建され50以上の堂塔が並ぶ大寺院であった。明治の廃仏毀釈で取り払われ、本堂池のみ残る。東大寺の国宝、持国天像、多聞天像はこの寺の所有であった。  
〈ワタカ伝説〉後醍醐天皇が吉野に逃れるとき一時入寺され「萱の御所」とも言われた。  
伝説では、追っ手が迫り池のそばの木陰に隠れていたが、この時、愛馬がいなかったため、天皇が間髪いれず、**馬の首**を切り落とし危機を脱したという。馬の首は**本堂池**に落ちると化して、**草を食う魚**、『**馬魚**』になったと伝える。伝説が伝説を呼び、善男善女で寺は賑わったが、明治の初めまで、誰一人、魚に手を出すものがいなかった。永久寺が消失すると、池の水は農業用水に利用され、魚を獲って食する輩まで出てきた。ワタカは信心深い人の手で大正8年奈良東大寺の鏡池に移された。  
体長15~30cm口先長く馬顔、夏期水草を飽食する、琵琶湖淀川水系固有種コイ科。**石上神社鏡池に棲息するワタカはこの時代の原種**といわれ天然記念物。
  
- ◎ 東乗鞍古墳：山の辺の道の夜都伎神社北東にある。このコースでは最も小さな古墳です。前方後円墳72m、古墳時代後期6世紀中頃、玄室長7.8m、幅2.4m、高さ3.3m、2基の石棺有り、玄室に入れます。  
(近くに西乗鞍古墳120m6世紀前半が有り、墳頂にのぼれます)
  
- ◎ <sup>やとぎ</sup>夜都伎神社：乙木集落の北端にあり、春日の四神、<sup>たけみかづちみこと</sup>武甕槌命、<sup>ふつぬしのかみ</sup>経津主神、天児屋根命、姫大神を祀る。鳥居は嘉永元年(1848)春日若宮から下げられたものという。社名は乙木の古い表記で於都伎の誤字だともいわれる。
  
- ◎ 竹之内環濠集落：外敵を防ぐため、周囲に用水路を兼ねた水濠を巡らせた集落。奈良県では最も高所にある環濠集落で遠く南北朝から戦国時代につくられた。少しはなれた南方に萱生環濠集落もある。
  
- ◎ 西山塚古墳：<sup>かよう</sup>萱生町環濠集落前にある5世紀後半の周濠のある前方後円墳。

埴輪から継体天皇今城塚古墳と同じ高槻の大規模埴輪工房跡、新池遺跡で焼かれていることから、継体天皇皇后の<sup>てしらかのひめみこ</sup>手白香皇女の墓という説も多い。

- ◎ **衾田陵**：<sup>あきだ</sup>〈西殿塚古墳、伝<sup>てしらかのひめみこ</sup>手白香皇女陵〉230m、4世紀初頭、古墳時代前期。景行陵 300m、崇神陵 242mに次いで大きい。一見の価値有り。継体天皇皇后陵とされ宮内庁が管理されているが、継体天皇は6世紀の人なので時代は大きく異なり誤りがあるのは明らかで、識者は西山塚古墳が手白香皇女の墓であると称えている。古墳の正面へは坂道を登り陵墓を左手に見て、果樹園の中を抜ける。
- ◎ **念仏寺**：旧中山寺の一坊といわれる。背後の燈籠山古墳(110m4世紀末)の前方にある墓の高さ**2mの五輪塔**は坂上田村麿の墓とつたえる。南北朝、貞和5年(1349)の**地藏石仏**もある。
- ◎ **下池山古墳**：念仏寺の直ぐ西にある4世紀中頃の古墳。出土した鏡(内行花文鏡)は、日本で5番目の大きさに37.6cmある。卑弥呼が魏に送ったとされる幻の班布(<sup>しどり</sup>倭文/絹と麻の縦糸混合布)の断片が付着していた。東南のすみに墳頂に登れるところがあり360°展望ができる。
- ◎ **中山大塚古墳**：120mの前方後円墳、中世山城として使用され改変されている。廃寺となった中山寺があった、南側に中山観音堂が建てられている。前方後円墳の前方南端に、大和神社御旅所、大和稚宮神社が鎮座している。大和神社は伊勢神宮と並び最古の神社で、**戦艦大和**に大和神社の**分霊**を祀っていた。
- ◎ **崇神天皇陵**：〈<sup>やま しん の とう さま</sup>行燈山古墳〉<sup>やま しん の とう さま</sup>山邊道勾岡上陵4世紀中期、古墳時代前期、前方後円墳 242m、第10代天皇、**実在した初の天皇**三輪山の山麓に三輪王朝と呼ばれる古代王権の始祖。
- ◎ **景行天皇陵**：〈<sup>やま の べ の さん ち の え の み さま</sup>渋谷向山古墳〉<sup>やま の べ の さん ち の え の み さま</sup>山邊道上陵、**300m**。地元では崇神陵と景行陵は入れ替わって呼ばれていて、現在の景行陵は「王之塚」と呼ばれ崇神陵と伝承されてきた。
- ◎ **相撲神社/野見宿禰神社**：兵主神社の摂社、野見宿禰をまつる。「**カタヤケシの地**」といわれ、出雲の野見宿禰が葛城の豪族<sup>たいまのけはや</sup>當麻蹶速(蹶速)と垂仁天皇7年7月7日ここで相撲をとり、蹶速を踏み殺した**相撲発祥の地**。埴輪を造る土師氏となる。**菅原道真**は子孫である。昭和になって、昭和37年大鵬と柏戸の両横綱が土俵入りしている。

- ◎ <sup>あなしにますひょうず</sup>穴師坐兵主神社：剣をご神体とする。兵主神は中国神話の<sup>しゅう</sup>蚩尤に相当し戦いの神。  
蚩尤は中国 <sup>みやお</sup>苗族の英雄神だが後に異形の姿に表現された。獣身で銅の頭に鉄の額を持ち、人の身に牛の蹄を持って頭に角があるという。鉄器五種類の武器を発明、天界の帝王黄帝と戦い濃霧を起こして苦しめたが、**指南車**を作って方位を測定した黄帝に敗れた。斉の国では神として祭られた。(兵主神社の紅葉は綺麗)  
**藤ノ木古墳**から出土した鞍に鬼神などの装飾模様があり、蚩尤だと思いと、中国歴史博物館の孫氏が述べられている。〔古代を検証する/千田稔より〕  
〈穴師〉鉄鉱石など掘る製鉄技術に関連した集団の居住区域だったとされる。  
〈指南車〉磁石を使わず絶えず南を指す仙人像を置いた車。(教えを授ける、**指南の語源**)  
〈兵主神〉垂仁 3 年の時、新羅の皇子<sup>あめのひぼこ</sup>天日槍が渡来、七種類の宝物と共に持ち込んだ？
- ◎ 橘神社：兵主神社の摂社、<sup>たじまもり</sup>田道間守をまつる。(田道間守は天日槍の系譜に連なる)  
垂仁 90 年、天皇は田道間守に命じて常世国<sup>とこよのくに</sup>に「**非時の香果**」<sup>かぐのみ</sup>をとりに赴かせた。  
いまでいう「**橘**」の実のことである。だがその帰りを待たず天皇は 140 歳で崩じ菅原伏見稜に葬られた。田道間守が「非時の香果」を持って帰朝したのは、その翌年、出発して 10 年後のことであった。すでに天皇が崩じたと聞いた田道間守は稜に非時の香果をささげ、嘆き悲しみ、稜の前で慟哭しついに泣き死んだという。  
田道間守の持ち帰った橘は垂仁天皇の<sup>たまきのみや</sup>珠城宮跡あたりに植えられ代々の天皇に献上されるようになった。(穴師蜜柑畑の伝説/宮中紫宸殿に左近の桜に対して右近の橘)
- ◎ 垂仁天皇<sup>まきむくたまきのみや</sup>纏向珠城宮跡：三輪王朝第二代の垂仁天皇の都がこのあたりに営まれていた。
- ◎ 景行天皇<sup>まきむくひしろのみや</sup>纏向日代宮跡：日本武尊の父、12 代景行天皇はこの宮で即位した。  
やがて景行天皇は纏向の地を去り、近江の<sup>たかあなほのみや</sup>滋賀高穴穂宮に移ったが、2 年後に 106 歳で崩じたという、しかし遺体はまた纏向へ戻る。山邊道上稜がその<sup>おくつき</sup>奥津城(墓)。
- ◎ <sup>ひばら</sup>桧原神社：大神神社の摂社で元伊勢と称される。三輪山をご神体とし神殿も拝殿もない。  
重文の三ツ鳥居(三輪鳥居)が建っている、<sup>みづがき</sup>端垣も重文。  
ここから見る、西方の「二上山の夕日」が美しいことで知られている。  
二上山には大津皇子が葬られている。謀反疑いで捕らえられ 3 日後に死刑。  
24 歳

『現身うつつみの人なる吾や明日よりは二上山にのせを同母弟どうぼていとわが見む』おおく大伯皇女(大津の姉)

- ◎ げんびん玄賓庵 : げんびんそうず玄賓僧都は桓武天皇の病氣平癒で信任を得て、大僧都に任じられたが、辞退し三輪山の麓に隠棲した。謡曲「三輪」の舞台で僧都のところに来た女の人が僧都の衣を所望、あとを追うと大木にその衣がかけてあった。女人は三輪明神の化身で僧都に接して仏道に縁を結ぶことが出来たと語る…(大神神社の境内に衣掛け杉が有る)
  
- ◎ さいい狭井神社 : さいいいますおおみわのあらみたまじんじや〈狭井坐大神荒魂神社〉2000年前垂仁天皇の時に創祀。北を流れる狭井川は薬川とも云った。昔は呑むと病気をしないと云われていた。境内に「狭井の御神水」(薬井戸)があり呑めば諸病が免れると伝えられる。社務所に申し出ると、ご神体の三輪山に入山登拝出来る。(往復 1.5~2 時間)
  
- ◎ おおみわ大神神社 : 大和の国一ノ宮。大物主神(三輪明神)、三輪山がご神体で本殿はない。
  
- ◎ 三輪山 : 標高 467m、三角点有り。禁足地、入山許可をうける、祭祀遺跡の磐座がある。御諸山(みもろやま)、美和山(みまやま)、三諸岳(みもろのおか)とも云った。
  
- ◎ 平等寺 : 開基は聖徳太子と伝える。大神神社の神宮寺として栄華を極め、鎌倉時代には三輪社奥の院としての名刹であった。明治の廃仏毀釈で整理を迫られ、昭和 52 年平等寺と寺号が復興された。
  
- ◎ かなや金屋の石仏 : 釈迦如来(右)と弥勒菩薩(左)を泥板岩に線彫された高さ 2m の石仏。古墳から出土した石棺の蓋に、平安後期から鎌倉時代に彫られたもの。
  
- ◎ つばいち海拓榴市(観音) : 大和川(初瀬川)の川舟の終着地、水運の港であり、東西南北陸路や難波なにわからの水路が集まる交通の要所であり市が開かれていた。また若い男女の恋愛の場で歌謡を掛け合う風俗の歌垣も行われていた。観音堂だけが今に伝える。  
ものべのあらかひ物部鹿火の娘影媛と恋人のへぐりのまどり平群真鳥の息子しび鮪と、皇太子であった武烈天皇がこの歌垣で鉢合わせ、悲劇がはじまる。恋人を奈良山で殺された影媛は山の辺の道を歩くのだった。  
『石の上 布留いそかみふるを過ぎて 薦枕こもまくら 高橋過ぎ 物多ものさばに…』

◎ 志貴御県坐神社：桜井市金屋に「磯城瑞籬宮跡」第10代崇神天皇の宮跡碑が境内の一隅に立っている。疫病が流行し、人民の死亡、流離があいついだので、天皇は八十万の神に神意を問うた。この時倭迹迹日百襲姫命が神憑りしていった『私をうやまいまれば、かならず国内は平穩になるであろう』『私は倭国の域内にいる神で名は大物主神である』そこで天皇は大物主の子孫である大田田根子を祭主として宮を営んだ。これが大神神社で、そして国内はようやくしづまったという。

〈卑弥呼と倭迹迹日百襲姫命〉：倭迹迹日百襲姫命は、崇神天皇に真意を伝える巫女の役割を果たしていたのである。その神意によって天皇は政をおこなった。類似点多く、卑弥呼もシャーマンとして神託を受け男弟に告げ国内を統治していた。箸墓古墳は倭迹迹日百襲姫命の墓とされるが卑弥呼の墓ともいわれている。

◎ 仏教伝来の地碑：538年(又は552)百濟聖明王の使者が、第29代欽明天皇に金銅の釈迦如来や経典、仏具などを献上し、日本に仏教を最初に伝えたといわれる所。  
上陸したところは、海拓榴市のあった川港で、難波津舟運の最終地で、都の外港として重要な役割を果たしていた地であった。  
またこの辺りには磯城瑞垣籬宮(10代崇神)、磯城嶋金刺宮(29代欽明)もあった。  
第33代推古18年(608)に遣隋使小野妹子が隋の使者と帰国し飛鳥に入る時、銚馬(飾り馬)75疋を仕立て海拓榴市の路上で阿部比羅夫に盛大に迎えさせた地でもある。  
初瀬川に架かる橋に馬井手橋がある。タイル壁画にこのときの様子が描かれている

#### 【補足】

\*海拓榴：『椿』のことで昔は山茶花のことであった。つば市に椿の並木道があった。

\*田道間守：奈良西ノ京尼ヶ辻の垂仁天皇陵の濠の中に田道間守の陪塚がある。

\*箸墓伝説：倭迹迹日百襲姫命は三輪山の神大物主神の妻となる。夜しか訪ねてこない夫との約束を破ってその正体は衣紐くらいの美しい蛇だと知る。怒った大物主は御諸山(三輪山)に去っていく。百襲姫はなげき悲しみ、陰を箸で突いて死んだ。時の人はその墓を箸墓と呼んだ。

日本書記にある築造の有様は、この墓はひるは人が造り、夜は神が造った。大阪山(二上山)の石を人と神が協力して運んだ。

山から墓まで手通伝(リレー)にして運ぶと伝える。

＊埴輪の起こり：垂仁天皇の皇弟倭彦命が死んだとき、生前、倭彦命のそば近く仕えていた者たちを強制的に生きながら陵の周囲に埋めた。殉死者は数日間も死なず、昼夜泣き苦しんだ、そして死ぬと、その腐敗した死体に、犬や鳥が群がって喰み散らしたという。天皇はこの悲惨な有様を見て心を痛め『古来の風習とはいえ、良くないことは、従わずともよいはず』と殉死を排された。4年後、2番目の皇后日葉酢媛命が崩じた。そのとき野見宿禰が献策して、土で人や馬、その他の物の形をつくり、『これからはこの土偶をもって生きた人のかわりに陵の周囲に立てることにしたら如何』と奏上した。天皇は大いに喜んで、それらの土偶を墳墓の周囲に埋めたとされる。この土偶を埴輪という。

日葉酢媛命陵、207m4世紀の築造、佐紀盾列古墳群の中にある。近鉄平城駅下車。